

学校運営協議会 会議実施報告書

このことについて、「岐阜県立学校における学校運営協議会の設置等に関する規則」第8条第1項に基づき、次のとおり学校運営協議会を開催しましたので、その概要について報告します。

- 1 会議名 令和4年度吉城高等学校 学校運営協議会 (第3回)
- 2 開催日時 令和5年2月7日(火) 16:00～17:00
- 3 開催場所 飛騨市文化交流センター(リハーサル室)
- 4 参加者

委員長	柴田 駿一	吉城高校同窓会長
副委員長	沖畑 康子	飛騨市教育委員会教育長
委員	都竹 淳也	飛騨市長
	川上 佳洋	宇宙まるごと創生塾飛騨アカデミー理事長
	渡邊 正憲	(株)飛騨ダイカスト代表取締役
	北村 淳子	地域(有)まるじん
	船坂 志乃	地域(前)吉城高校育友会女性部長
	竹林 千恵子	吉城高校育友会女性部長
オブザーバー	布俣 正也	岐阜県議会議員
学校側	野々山 伸一	校長
	中田 和美	教頭
	大乘坊 健	事務長
	小澤 耕	教務主任
	河野 和代	生徒指導主事
	井田 和実	進路指導主事
	桐谷 直嗣	特別活動部長
	鈴木 泰輔	キャリア推進部長
	野村 剛志	理数科主任

5 会議の概要(協議事項)

*この会議の前に「YCK(吉高地域キラメキ)プロジェクト報告会」実施

(1) 会長挨拶

「YCK 報告会」を拝見して、先生方の寄り添った指導からもたらされる成果に感動した。特に最後の生徒のスピーチは、成長した姿を聞くことができよかった。大学の先生からも「最先端」というお褒めの言葉も頂いたので益々発展させていただきたい。吉城高校がこんなことをやっているとの発信においても工夫していただけると良い。

(2) 今年度の報告

学校長より

生徒にとって「YCK 報告会」本発表会は、あくまでも通過点であると認識している。本校の取組について良い部分はそれとして、改善点をご指摘いただきたい。より良くしていきたい学校としては、生徒がやりたいことがやれる環境を提供との思いでこの1年やってきた。教員が解決するのではなく、ダメならどうするのかを考えさせるような姿勢で生徒を支えてやってきた。うまく行かないことを乗り越えたことが垣間見えた発表だったと思う。高校生として、探究活動をどう捉えていくとよいかと考えた時、ちょうど飛騨市の学園構想での高校の立ち位置と同じであった。今後も引き続き後押ししていただきたい。

(3) 「YCK 報告会」の感想と質疑応答

意見1：今日の発表会については、感無量である。すごい水準であると感じた。探究の教育でここまで行っているのはすごい。自己肯定感や自己有用感を高めている生徒が多く、それはさらに学びを深める原動力になるし、社会で求められる力でもある。YCK活動も何をやるかだけでなく、その先の成果が具体的に見えてきていると感じ、素晴らしかった。地域課題探究の内容は市役所で取り組むべき内容もあった。学校だけで終わらせるのはもったいない。地域部活動的に小中高生と一緒に取り組むことの仕掛けにしていきたいと考えている。ギガスクール構想でタブレットが普及してきているので、この1、2年で小中学校では、教育環境や取り組みが劇的に変わっている。高校に入ったときにその流れが活かしているかが心配である。小1からプレゼンを使いこなしている。小中学校で取り組みが進んでいることを先生方も目を向けてもらい、高校でどう活かすかの視点を持ってもらいたい。また、地域部活動について、中学の部活はなくなり、地域の活動に変わっていくことがこの3、4年で一気に進む。高校もそうならざるを得ず、部活が成り立たなくなる。不可避的に地域全体で地域全体の中で、部活をやらざるを得ない。ここについては大いに地域で議論をしていきたい。高校生が今急減期に入っている。少人数で成り立つという学校経営を考えていく必要がある。吉城高校もどういう学校を作っていくかを視野にいれていただきたいと思う。

→ ICTの環境は整い、吉城高校では、先進的な取り組みをしていると県からも評価をいただいている。生徒が能動的に取り組む有効なツールである。アニメーションを用いて、イメージできたりする例もある。小中の活用事例も学んでいきたい。県では生徒が壊した場合、修理費は自己負担となる流れである。経済的な面もあり、どのようにタブレットの使用とも向き合っていくかも課題である。

→ 中高が連携して、地域移行してする部活動運営については、県からの見解はまだ特にきていない。今後ご相談をさせてもらいながら進めていくのが一番良いと考えている。ICTは充実しているが、カリキュラムのこともあり、小中学校と比較すると発表の場は少ないかもしれない、ICTの技術力は特に教えているわけではないが、小中学校で培っている知識で馴染んでいる印象である。

意見2：冒頭の学校長の話で、結果でなく、今後に繋がっているとの言葉に印象が残った。吉城高校のエネルギーに圧倒された。最後の生徒の言葉に特に感動した。SDGsを意識した素晴らしい発表もあった。自分を新しく発見していくものになっている。

意見3：感動の一言に尽きる。空き家対策の件は飛騨市のホームページにあるので興味深く聞いた。産業関係につながるように、地域の企業就職につながっていくことをも願っていた。年度ごとにレベルが高くなっている。

意見4：感動をいただいた。生徒が考えたことを落ち着いて発表できているところ、そして夢に向けて学ぶことができる。先輩から後輩につなぐ姿勢がある点、飛騨の魅力を消さないよう地域の方、保護者、先生方と連携して結果を出している姿を見て感動した。少子化など諸問題あるが、吉城高校に入ると人間性が穏やかに育ち、全てが学べる場所である

ことを痛感した。YCK を中心に、今後の活躍を願っている。

意見5：ヒダスケについて、去年は参加するところから、主体的に取り組むところへと一段と飛躍している。マスコットを考案した発表について、今後のイベントで活用されることを楽しみにしている。

意見6：社会に出ると同じ学年の人と仕事をするのではないので、学年や性別を超えた関係性で協力していくことがすごく良い経験になっているのではないかと。発表もすばらしかったが、その体制がすばらしいと感じた。

意見7：最後の生徒の言葉は大変良かった。モデルケースだった。YCK 中の気づき、自分を変えていく視点、目標を見つけ出ししていくこと、全ての生徒にそこに至ってほしい。YCK はそのためのものである。さらに目標を見つけた後の、教科の学習とのマッチングが重要と捉えている。それぞれ学びの段階があるので、いろいろな発表があつて良いと考える。与えられたテーマからもいろいろな気づきがあり、そこから関心課題が見つかる。次の段階に行ける。いろいろなことがあるが一人ひとりがそれぞれ学んでいる点が素晴らしい。タブレットについて、保育園児でさえ、探究心や好奇心は素晴らしいものがあり、使いこなしている。小中で力を入れている部分があるので、高校ではそこまでの学びを総合して好奇心が止まらないような動きや学びになってほしい。高校でぜひ伸ばしてもらいたい。今日の資料について、目的と手段を明確にして、すっきりとした資料にすると良いと思う。ルーブリックを活用してもらいたい。作ったものは使うべき。ルーブリックは自己理解力を高めるためのに使ってもらいたい。

→ルーブリックについては、4月と昨日に調査した。事前と事後を比較すると、伸びた生徒もいれば、下がった生徒もいるのでどういう点が良くなかったのかについて、具体的な場面で振り返りをさせていきたい。

意見8：学校評価の報告資料を読むと内容が大変難しく、1年間を評価することが難しい。地域の目標やビジョンを地域の方、保護者で共有するのは特に難しい。地域の大人は良い方が多く、学びの伴走者である。子供たちがこんなことやっているとの情報をわかりやすくPRしていただきたい。飛騨市も含めて最先端の教育の街にしていけるのではないかと。PRが伝わる、シェアできる文書を作っていきたい。

意見9：皆様の感想通り。生徒が自ら堂々と述べていることが大人の刺激になる。大人がベースを作り、生徒が柔軟な発想でアイデアを出す、これがESDの意義である。社会が求める真の学力をつける意味のある、評価されるべき取り組みである。資料については、独自の評価方法で進める仕組みを作っていければ良い。県には意見として発信していきたい。YCKの取り組みは競争ではない。吉城高校にしかできない取り組みなのでペースを崩すことなく、広げていただきたい。

(5) 閉会

副会長：会を重ねるごとにいい議論ができるようになってきたと感じる、生徒とも一緒に議論できると良い。